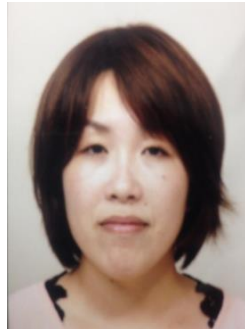


ふりがな 氏名	かわかみ まや	都道府県	神奈川県	
	川上 麻耶			
所属/肩書	横浜市立永田台小学校／教諭			
私の ESD活動	環境＝私たちにつながるすべての命			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

「命」を核として授業を構成してきた。

子ども達が自分たちの町を大切に思い、地域の一員として自分にできることを考え、実行し続けられること。自分の命、周りの人の命、植物、動物の命を大切に思い、自分の意志で行動できる力を育てることを目標として取り組んでき取り組みは、子どもたちの発達段階、地域の特色によって異なるが、問題意識をもつことや、たくさんの本気の大人に出会うことで、自分の身の回りでできることを真剣に語り合い、「あいさつをする」「感謝の気持ちをもつ」「本気で考える」など学校を卒業しても、自分で続けられる力を育んでいこうと取り組んできた。

また、取り組んできたことを発信する場として、毎年東京ビッグサイトで行われる「エコプロダクツ展」に5年連続出展している。そこで、通り過ぎる大人に声をかけ、語り合っている。子どもたちの考えを発信する場を自分の住む地域だけでなく、外部の全く知らない人と接する場を設けることで、意識が高まったり、自分たちの考えの甘さに気がついたり、さらに真剣に取り組んでいこうという意欲につながった。そして、子どもたちが本気で活動していることを、毎年発信し続けることで、聞いてくださった方が「自分でも行動しようという意欲につながった」というお言葉を何度もいただいた。このように子ども達の意識は続けることで変化し、本気で自分のことや地域のことを考え、行動し続ける姿が見られるようになってきている。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

未来を担っていく子どもたちが、ESDの取り組みによってどのように変化し、行動し続けようという気持ちをもっているのか、また実際に活動しているのかを話し合う中で、私自身が変化し続けていかなければならないと思う。

子ども達一人ひとりが「自分」のことを大切に思えないと、周りの人やもののために行動しようという気持ちはわいてこないと私は考えている。だからこそ、大人が自分のやってきたことや、考えていることを子どもたちに本気で語る必要があると思う。大人だって悩み、考え、行動することを繰り返していることを伝えることこそがESDである。そして、自分自身を大切に思えると、周りの人やもののありがたみを感じ、大切にしていこうという思いを持てるのだと思う。

今未来を担うものとして、考えていくことや悩んでいることを語り合うこと、子どもと真剣に向き合うことがなによりも大切であり、続けていかなければいけない。